

ガンコ親父の

この数年、松次郎は自分が登場する「昔話」をメールで孫の譲(ゆずる)に送ると、必ず感想が返信されてきた。息子の学に聞いてみると、学校では先生に作文が褒められているらしく、本人もこれは松次郎じいちゃんのおかげかもしれないと、本気で思っているようだった。

譲がもつと小さかった頃、新しい話を聴くためによく松次郎の家に遊びに来てくれたが、最近は直接顔が見れなくなったので寂しかった。ところが、まるで松次郎の願いを分かっていたかのように、譲は新しい話を持って松次郎の家に現れた。そして、作った話を紹介してくれた。本当にできた子だ。それはこんな内容だった。

昔々、あるところにロクでもない男がいた。真面目に働くことはなく、人を騙したり、盗みに入ったりで、村のみんなに嫌われていたという。ある日、それを見ていた神様は男の悪事がこれ以上エスカレートしない様にと、改心の期待を込めてロバの姿に変身させた。真面目に黙々と働くロバの心を学んでもらおうと思っただけだ。

奄美黒糖焼酎

運送会社に雇われたロバは、毎日荷物を背負って遠くまで運んだが、重い荷物はさすがのロバにも辛かった。ある日、池のそばで休憩している時、居眠りを始めた。はっと目を覚めたロバは約束の時間が迫っているのに焦ってしまった。すると足をすべらせて背中の中の荷物を半分ドボンと池に落としてしまったのだ。

池の中に落ちた荷物は塩だった。モタモタとしていた間に塩は溶け出して、荷物は軽くなってしまった。半分の重さになったおかげで、ロバは急いで約束の時間に荷物を届けることができた。ロバは荷物を軽く出来る方法を知ったのである。

次の日の荷物は昨日に比べ大きい荷物であったが、ありがたいことに軽かった。これは楽に届けることができるなど、甘く見たロバは途中でサボり心が出てきて、池のそばでまたまた寝込んでしまった。遅くなればまた水に濡らせば良いとたかを括っていたのだ。ロバは目覚めると池に飛び込んだが、逆にどんどん重くなる荷物に真っ青になった。ロバは背中の中の荷物が綿だったことを知らずに溺れてしまった。

せっかくのチャンスを活かすことができなかったロバだったが、それを見ていた神様に命だけは助けてもらった。頑張ればまた人間に戻ってあげようと思っていたのだが、残念ながらそれはできない。このまま人間に戻っても、オレオレ詐欺や闇バイトに走ってもらっては困るし。よし、今度はカエルになってもらおう。今でもカエルは神様に向かい、人間の世界に帰りたいと池のそばで「カエルコール」を出しているという。

話し終わると譲は持ってきた『しまっちゅ伝蔵』を松次郎に差し出した。重かったので、早く渡したかったと譲は言

った。おじいちゃんなら簡単に軽くできるだろうしねと、ウインクした。「そっか、じゃあ、これはロバのように水に入れたらだめだな。直接口の中だな。母さんロククの用意してくれ!」と松次郎は上機嫌で叫んだ。



25度
好評発売中



喜界島酒造株式会社
鹿児島県大島郡喜界町赤連2966番地12
☎0997(65)0251

2009年10月喜界島は「日本で最も美しい村」連合に選ばれ、加盟しました。喜界島酒造は、この活動を応援しています。



the most beautiful villages in japan
喜界町
鹿児島県

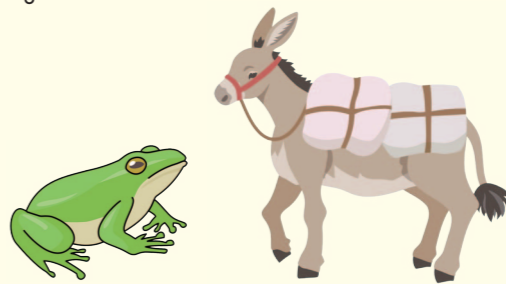


常圧蒸留

昔ながらの手造り
こだわり焼酎

喜界島の豊かな大地の恵と豊かな自然の中で、永年の伝統に受け継がれた製法でじっくりと醸しあげた「しまっちゅ伝蔵」黒糖焼酎の味を全面に出し昔ながらのkokoroのある味と香りです。

しまっちゅ
伝蔵
でん
ぞう



「ロバ」に乾杯!!

<http://www.kurochu.jp> お酒は20歳になってから。お酒は楽しく適量を。飲酒運転は法律で禁止されています。妊娠中や授乳期の飲酒はお控えください。